



こども造形展



特別支援学級作品展

● **第6回川口こども造形展・
第47回川口市特別支援学級合同作品展**

12月14日から17日までリリアで開催され、訪れた6,700人もの市民は、市立幼・小・中・高等学校合わせて84校(園)1,450点もの力作に見入っていました。



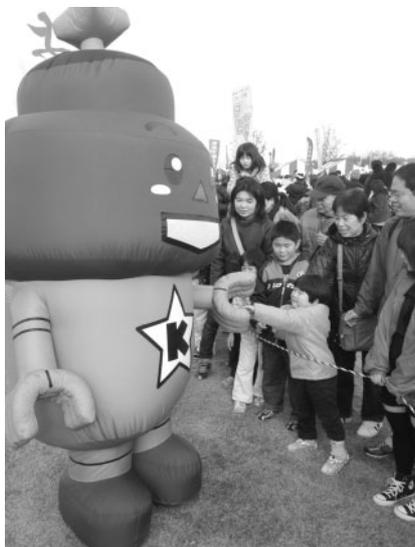
● **第31回川口マラソン大会**

12月2日青木町公園総合運動場を起点に開催。晴れ渡る空のもと、7,000人を超える市民ランナーが健脚を競いました。



● **リリア第九演奏会**

12月16日、リリア・メインホールで開催され、川口第九を歌う会のみなさんは、高関健氏指揮の下、新日本フィルハーモニー交響楽団の演奏で、ベートーヴェン交響曲第9番「歓喜の歌」を熱唱しました。



●ゆるキャラ®さみっと in 羽生

11月24・25日、全国から265体のゆるキャラ®が羽生水郷公園に大集合。川口からはきゅぼらんが参加し、たくさんの来場客に「ようこそ川口」をPRしました。



●平成24年度川口市消防団特別点検

11月25日神根運動場で行われ、11支団、385人の消防団員が、機械器具点検、ポンプ車操作、放水訓練などを実演するとともに、消防活動に深く貢献をされたかたに表彰を行いました。



●拉致被害者特定失踪者写真展

12月10日から16日までキュポ・ラ5階中央図書館入口で開催。拉致被害者の田口八重子さんの写真などのパネルが展示され、拉致問題の全面解決を訴えました。

ひと・歴史・かわぐち

このコーナーでは「川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり」に登場した川口ゆかりの人物を紹介していきます

「川口を駆けた御曹司」

源 義経
みなものよしのね

川口と源義経。どのような縁があるのでしょうか。号は、兄・頼朝の拳兵に馳せ参じるため、奥州平泉から駆け上がった義経と川口との関わりをご紹介します。

源義経といえば思い出されるのが幼名「牛若丸」。父に源氏の棟梁・源義朝を持ち、母は常盤御前。後に鎌倉幕府を開く源頼朝の異母兄弟として兄を助け、平家打倒の立役者となります。そして、最後には悲劇的な結末を迎えるヒーローとして知られています。

この義経の生涯を記した伝記が「義経記」(きけいき)です。川口の地名は、巻第三の「頼朝謀反により義経奥州より出て給ふ事」に登場します。

義経は、奥州藤原氏の三代目・藤原秀衡(ふじわらのひでひら)のもとで数年間、文武の才を磨きます。平清盛が福原に遷都した1180年、兄・頼朝が平家打倒のため伊豆で拳兵したことを知り、すぐに兵を整え頼朝のもとへ参じます。そのくだりを、現代文に直し要約してみます。

義経は頼朝の拳兵を聞き、秀衡に「追いついて一方の大將軍になりたい」とまで思う」と告げます。秀衡は「源氏の殿が出陣するのだ。陸奥・出羽西国の軍兵たちを招集せよ」と部下に命じます。しかし義経が「千騎・万騎も引き連れて行きたいが時間を要してはいけない」というので、秀衡は急ぎ300騎を付けます。義経は武蔵坊弁慶らと平泉を出発。馬の腹筋が切れるのも、すね

がくじけるのも構わず、頼朝に追いつこうと、全速力で駆けます。途中、那須(栃木県)の辺りでは150騎に減っていました。義経は「百騎が十騎にならんまでも、打てや者共後を顧みるべからず」(100騎が10騎に減っても馬を走らせ後ろを振り向くな)と命じます。そして「武蔵の国、足立の郡、川口に着き給ふ。御曹司の勢八十五騎にぞなりにける(川口に着いたときには85騎になっていた)」と記されています。

この後の義経の活躍と凋落は史実でご存知のことでしょう。武將として歴史の表舞台に躍り出る重要な場面に、往時の川口を駆け抜けた若武者の姿を思い描いてみるのも楽しいのではないのでしょうか。

参考文献
『義経記』(新編日本古典文学全集②) 梶原正昭校注・訳 小学館 2000年

